

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部 発行：会長 田中勇次郎

一人一人が広報担当

この度、広報部の新しい理事を拝命しました、水口寛子です。どうぞよろしくお申し上げます。この機会に改めて広報の役割について考えたいと思います。少々お付き合い頂ければ幸いです。日本広報学会によると広報の定義は、「多様なステークホルダーとの双方向コミュニケーションによって、社会的に望ましい関係を構築・維持する経営機能である」とされています。作業療法士の目的達成、課題解決とは個人や会社、地域社会単位全てを含む多様なステークホルダーにおいて「作業を通じて元気になる」ことをお手伝いすることだと思います。

世は情報化社会です。SNSは苦手、と言う方もいらっしゃると思いますが、多くの方は自身のアカウントを持ち、日々色々なことを発信されているのではないのでしょうか。7月に行われた総会でも、これから成り手になりうる中高生に対してSNSを利用した広報活動の話が挙がりました。先日の東京都知事選においても当選こそ叶わなかったもののSNSを効果的に利用した候補者が躍進するなどSNSの利用が重要であることは否定しようがないと思います。

では、どのように利用すべきなのでしょう。まずは何でも良いから知ってもらおう、という方法はあるかと思います。流行っていること、バズっていることのハッシュタグをつけて目に止まるようにする方法、バズりそうな動画にすること（例えば流行りのダンス動画「踊ってみた」などを投稿し続ける）などはあるかと思います。しかしこの方法は気をつけないと作業療法に対して間違ったイメージを持たれる可能性はあるかと思います。つまり、ただ名前を知ってもらっただけ、に終始してしまうと本来私

ちが大事にしている作業療法の本質や重要性、その職業の内容が間違っ伝わってしまうこともあると思います。SNSには高度なアルゴリズム化によって、一度検索をかけるとフィルターバブルと言って類似した情報のみがどんどん表示され、興味のない情報は排除されるような仕組みになっています。そのため、作業療法に関するネガティブな情報に一度アクセスすると、類似した内容を多く目にする事になり、その情報がたとえ正しくなかったり、ごく一部であるとしてもその方のバブル化された情報網の中では次第にそれが強化されてしまう、という危険性もはらんでいると思います。一例として「作業療法士給料低い」「作業療法士 きつい」などの情報に一度触れてしまうとそのような類似した情報しか目に届かなくなってしまいます。もちろん待遇改善も必要だと思います。作業療法は重要な仕事であり、日々勉強なのでもっと待遇が改善されるべきだと思います。

一方で、皆さん一人一人の臨床はどうでしょうか。少なくともこのニュースを真面目に読まれる会員の方の臨床は胸を張って「魅力的な仕事」といいと思います。個人情報扱いには十分気を付けながらも作業療法の魅力を伝えるため、SNSを利用してみるのはいかがでしょうか。東京都作業療法士会も主要なSNSのアカウントを持っており、これから積極的に発信していこうと思っています。巻末12ページの都士会公式SNSの紹介をご確認ください。



国立国際医療
研究センター
水口 寛子

CONTENTS

- ◆一人一人が広報担当…①
- ◆第20回東京都作業療法学会の総括と御礼…②
- ◆2024年度 現職者共通研修 開催のお知らせ…④
- ◆2024年度 現職者選択研修（身体障害領域）開催のお知らせ…④
- ◆事業部活動報告…④
- ◆事業部主催研修・オープンキャンパス…④
- ◆子ども委員会活動報告…⑤
- ◆災害支援からみる地域づくり：第20回東京都作業療法学会公募企画の報告…⑤
- ◆認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告…⑥
- ◆認知症にやさしい本の紹介 VOL.46…⑥
- ◆保険部 Letter 福祉用具貸与の介護報酬改定情報…⑦
- ◆～福祉用具に係る貸与と販売の選択制の導入～…⑦
- ◆こどものための福祉機器展に出展しました！…⑦
- ◆都内で自動車運転再開を行っている支援マップ作成について協力をお願い…⑧
- ◆第20回東京都作業療法学会報告とオンライン就労支援事例検討会のご案内…⑧
- ◆OT協会の災害対策の動向と東京都で災害が起きた際の動き…⑨
- ◆ブロック活動のお知らせ…⑩
- ◆第51回国際福祉機器展 H.C.R.2024が開催されます！…⑫
- ◆都士会公式SNSの紹介…⑫
- ◆編集後記…⑫

第20回東京都作業療法学会の総括と御礼

イムス板橋リハビリテーション病院 松澤 良平

暑さ去りやらぬ昨今ですが、会員の皆様におかれましてはますますご盛栄のことと存じます。まもなくお彼岸を迎えますが、子供の頃に祖母が手作りしたおはぎを食べたことを思い出します。農業を営んでいた祖父が米と小豆を育て、祖母が米を炊き、小豆を煮て、おはぎを作り、私が食べるという、他者の「作業」が受け渡されていくことがあったのだと今になって思います。

さて、作業をすること、すなわち「Occupation Based」をテーマにした第20回東京都作業療法学会が、7月14日に現地開催され、8月末をもってアーカイブ配信が終了し、全日程を閉幕いたしました。

現地開催の開会式では、東京都看護協会会長の柳橋礼子様、東京都理学療法士協会副会長の豊田輝様、東京都言語聴覚士会会長の西脇恵子様にご臨席を賜りました。参加者は492名で、過去最高の人数となりました。ご多忙の中、会場にお越しいただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

大会長講演では、作業療法介入プロセスモデルの紹介をし、さらに、日本の臨床現場で整理するための作業療法のおべんとうと味変ソースを紹介しました。日々の臨床で、活用していただけることを願っています。

その後のシンポジウムでは、テーマを「作業基盤の実践」とし、東京工科大学の清家庸佑さん、帝京平成大学の中本久之さん、桜新町アーバンクリニックの村島久美子さん、東京都立大学の山西葉子さんにご登壇いただきました。各領域での実践例を紹介した後で、フロアの方も含めてディスカッションをしました。作業を基盤とした実践をすることは、場合によっては難しく感じることもあると思いますが、参加者は次の日からの実践のヒントを得ることができたと思います。私自身は、講師の方々の発表から新たな知識を得て、8月の部署内の研修に活かすことができました。

教育講演では、東京都立大学の石橋裕さんにご登壇いただきました。今後も作業療法士が生き残るためには、独自の知識を生み出す重要性を再認識しました。

特別講演では、株式会社オキュラボの森島肇さんにご登壇いただきました。森島さんの半生から起業に至る経緯、現在の事業展開について、ご紹介いただいた後、フロアとの交流時間を十分に取っていただき、普段の臨床とは少し違う世界で作業療法を活かすことを学ぶことができました。

東京都作業療法士会会長講演では、田中勇次郎さんにご登壇いただきました。東京都作業療法士会の歴史を振り返り、東京都の方針の下、東京都の医師会、理学療法士協会、言語聴覚士会と連携し、事業展開をしていることを学びました。個人的には、音楽教室などの一般企業からの相談が来ることが興味深かったです。

一般演題は、口述発表が20演題、ポスター発表が34演題ありました。各会場は盛況で、参加者の方は一般演題をメインに聴講しているようでした。一部機材トラブルがあったことやポスター発表のスペースが狭かったことが反省として残りました。

優秀演題賞についてですが、私の意向で、今回は始めから行わないことを決めていました。作業療法関連の学会では、事例発表が多数あります。その内容は、対象者の人生や生活に関わることが多いです。賞は本来、対象者には関係がなく、発表者の力量に対して与えることになると思いますが、どうしても切り離せない部分が出てくると思いました。考えすぎかもしれませんが、演題に優劣をつけたくなく、賞は設けませんでした。いずれの発表も素晴らしく、作業療法を発展させるとしています。

公募企画は、11ありました。何と会場を飛び出して、フットサル場で当事者の方も交えて、パラスポーツの理解を深める企画もありました。

そして、本学会では、2つの階に渡って13の一般企業や団体の出展を企画しました。過去の本学会で準備の

記録がなく、運営委員は手探りで準備を進めてきました。参加者の学びにつながるため、来年度以降もぜひ継続して企画できると良いと思いました。

アーカイブ配信ですが、本原稿を書いている8月2日の時点で延べ200回の閲覧数となっています。メイン会場で行われた各種講演の音声録音が上手くいかず、聞き取りにくい場面がありますが、閲覧数が伸びており安心しました。

最後に、昨年9月から始まった本学会の運営委員会のメンバーを労いたいと思います。対面とオンラインを併用し、概ね月1回の全体会議を行い、その他、各係でも会議を開いて、仕事の合間を縫って当日まで準備を進めてくれました。各メンバーの努力なしには、本学会の開催は困難でした。心から感謝しています。

本学会に関わったすべての人が、学会に参加したという「作業」を、対象者、同僚、そしてまだ見ぬ対象者に受け渡し、受け取った方が健康と安寧に役立てることを祈っております。



2024年度 現職者共通研修 開催のお知らせ

開催日：両日とも 9:00開始 入室開始：15分前

2024年10月6日（日）①作業療法生涯教育概論②実践のための作業療法研究

③日本と世界の作業療法の動向 ④職業倫理

10月20日（日）⑤作業療法における協業・後輩育成⑥事例報告と事例研究

⑦保健・医療・福祉と地域支援 ⑧作業療法の可能性



〈10月6日開催〉

開催方法：Zoom使用でのオンライン研修

参加費：会員1,000円、非会員2,000円

定員：各回 80名

申し込み：下記QRコード読み込み、もしくはホームページ参照

※詳しくは、東京都作業療法士会ホームページ「研修案内」をご参照ください



〈10月20日開催〉

2024年度 現職者選択研修（身体障害領域） 開催のお知らせ

開催日：2024年11月23日（土）9:00～16:10予定（受付開始8:30）

開催方法：Zoom使用でのオンライン研修

※受講中は開始から終了までカメラONでの受講となります。（昼休憩時は離席可能）

参加費：会員4,000円、非会員8,000円

定員：約90名（期日前に定員となった場合は受講できない場合あり）

申し込み：下記QRコード読み込み、もしくはホームページ参照

※詳しくは、東京都作業療法士会ホームページ「研修案内」をご参照ください



事業部活動報告

事業部主催研修・オープンキャンパス

事業部 中村 美保・大館 哲詩

去る7月5日に事業部主催研修として「OT向け中級編：一歩差がつくiDeCo・NISAの商品選びのポイント」を開催しました。前回の「未来の安心を築くためのはじめての資産形成術～OT向け入門編：NISAとiDeCoの活用～」は、100名を超える参加者を数え、アンケート結果からも大変好評だったことがうかがえ参加者皆様からも続編をやってほしいとの要望を沢山いただきました。そんな声にお応えし第2弾として前回に引き続きファイナンシャルプランナーの塚越菜々子氏をお迎えしました。今回も、20～60代と幅広い年齢層の方にご視聴頂く事が出来ました。「興味があっても自分からどのように勉強してよいのかわからなかったのが大変勉強になりました。」「前回もう少し知りたいと思っていた内容をカバーしていただけてありがたかったです。」「普段は自分で調べないと分からない内容を詳しく聞くことができ、勉強になりました。」などのお声を頂き、分かりやすく学びの多い研修会となりました。

また毎年恒例のオープンキャンパス企画も進めております。直近では8月9日に東京保健医療専門職大学に伺い高校生へのプレゼンテーションを実施しました。作業療法（士）という言葉は知っているものの、その内容については漠然としているといった感じで、実際の現場の様子などに関した話に真剣に耳を傾けてくれたように思います。事業部では引き続き、未来の作業療法士の成り手を増やせるような施策にも取り組んで参ります。

子ども委員会活動報告

子ども委員会 松永 優佳子

7月14日に開催された東京都作業療法学会では、様々な現場での“作業に根ざした”臨床や知見に触れ、自身の日々の取り組みに繋がる気づきと学びを得ることができました。公募企画にて子ども委員会でも、「今、子どもたちに何が起きているのか。発達OTが臨床で感じていること」をテーマに、3名の子ども委員会の委員が、それぞれの臨床現場で感じている事について話題提供をしました。療育センター・支援学校・発達相談といった3つの現場から、対象や支援背景、作業療法として求められていること、作業の実践をお伝えしました。社会や家族の在り方といった生活様式が日々変化していく中で、“生活”における作業へのアプローチも柔軟性が重要になってきました。特に、本人からの発信だけでは成り立ちにくい発達領域では、家庭・学校・医療・社会資源など、本人の生活を取り巻く環境における実態を知ることが、本人中心の支援につながります。様々な現場からのリアルな実践を通して、多様化していくニーズや現場のあり方について考える機会となりました。また、今回は、3名の話題提供者が同時に発表をし、15分ごとに参加者がローテーションをしていくという新しい形で行いました。スモールクラスで話題共有を行う形式は、参加者の方と近い距離でやり取りができ、内容がより深まりました。子ども委員会ではこれからも、研修の機会や交流の機会を通して、発達領域における作業療法のあり方を、現場で携わる方々と共に共有・発信していきたいと思っています。



12月に研修を予定しています。詳細が決まり次第、ホームページやFB、LINE、X（旧Twitter）などでお知らせするのでぜひご参加をご検討いただきたいです。

災害支援からみる地域づくり： 第20回東京都作業療法学会公募企画の報告

地域づくり共創部（JR東京総合病院） 安齋 哲也

第20回東京都作業療法学会において、「災害支援からみる地域づくり」と題し、齋藤正洋氏と三沢幸史氏の二人に、それぞれの視点から災害支援についてお話しいただきました。

齋藤先生からは、JRAT登録派遣員としての輪島市での避難所支援の経験を通じて、被災地における支援の実際や、平時における互助・共助の醸成の重要性についてお話しいただきました。一方、三沢先生からは自治会・町会が地域防災において果たす役割や、作業療法士がその役割にどのように貢献できるかについて、ご自身が住民として関わった経験からお話しいただきました。

お二方からは平時における地域の関係づくりの重要性についても言及され、災害支援について災害前後の両時点における取り組みについて考える機会となりました。会場からは「自宅避難者に対する支援」や「地域に住む災害時要支援者の支援について」、「病院、施設から地域の防災機能をどう担うか」など活発な意見交換がありました。

今回の企画で皆さんと一緒に議論し、深めることができた内容が今後の地域づくりや防災に役立てば幸いです。



認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告

認知症の人と家族の生活支援委員会 委員長
東京福祉専門学校 渡辺 陵介

本年度より認知症の人と家族の生活支援委員会委員長となりました渡辺です。メンバーも新たに増え、これまでの委員会活動の良さを残しつつも新たなチャレンジをしていきたいと考えております。

本年度最初の当委員会の活動としては、第20回東京都作業療法学会の公募企画を行いました。「オレンジカフェの体験」をテーマに、オレンジカフェMeMoさんの活動報告と一部実施内容の実践、豊島区職員の方によるオレンジカフェの紹介を行いました。当日は多くの方にご参加頂き、実際に行っていることを一緒に楽しむことができました。作業療法士としてどう関わるか考えるきっかけになったとともに、まずは一人の参加者として参加してみようと思って頂けたのではないかと思います。皆様もぜひお近くのオレンジカフェへ足を運んでみてください！

また、当委員会では「認知症への取り組みに関するアンケート」を実施しております。会員の皆様の認知症への取り組みについて実態調査をすることで、委員会の運営に役立てていきたいと思っておりますので、下記QRコードよりご回答をお願いします。



認知症にやさしい本の紹介 VOL.46

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

『トウモロコシのおもいで』

作者/早秋 丸（ザオチウワン） 訳者/小川 糸

認知症がテーマの絵本が久々に出版された。今回は、日本以外のアジアの国で出版され、日本語訳された中国の作品である。物語は夏のトウモロコシ畑を舞台に、少女と祖母が共に過ごすひとときを描いている。認知症になり、多くのことを忘れてしまった祖母。トウモロコシを収穫する瞬間だけは、少女との温かい記憶がよみがえる。絵は、夏のトウモロコシ畑の息づかいまで感じられるほど鮮やかで、まるでトウモロコシ畑の中にあるような感覚になる。特に、夕焼け空の下、畑から帰る道は、心が安らぐ美しいシーンだ。文章はシンプルで、子どもにも理解しやすい。同時に、家族の絆、記憶、そして成長といった普遍的なテーマが深く描かれている。祖母と孫の愛情あふれる関係性は、読者の心を温める。読後には、大切な人と過ごす時間を見つめ直すきっかけとなるであろう。トウモロコシを収穫し、子どもの頃家族と過ごす夏の日の温かさを思い出せる。さらに、祖母と孫の愛情の深さに感動した。作者と訳者は、それぞれの祖母との思い出を綴っており、その文章からも深い愛情が感じられる。作者は大学で広告学を学び、独学でイラストの制作を始めた。そして、この作品で絵本作家としてデビューしたと紹介されている。私は色の使い方にとっても爽快さが感じられ、物語も含め、好感が持てた。子どもも大人も楽しめる一冊である。

保険部 Letter 福祉用具貸与の介護報酬改定情報 ～福祉用具に係る貸与と販売の選択制の導入～

保険部 横山 雄一

【概要】

利用者負担を軽減し、制度の持続可能性の確保を図るとともに、福祉用具の適時・適切な利用、安全を確保する観点から、一部の用具について貸与と販売の選択制を導入する。その際、利用者への十分な説明と他職種の見解や利用者の身体状況等を踏まえた提案などを行うこととする。

【選択制の対象となる福祉用具の種目・種類】

- 固定用スロープ：13.2か月（国が示している福祉用具の平均的な利用月数）
- 歩行器（歩行車を除く）：11.0か月
- 単点杖（松葉づえを除く）：14.6か月
- 多点杖：14.3か月

上記福祉用具については、貸与と購入における費用の違い（長期利用では購入の方が安くなる場合がある）や貸与から購入に切り替えることができる点など、それぞれのメリット・デメリットを専門職として説明する必要がある。福祉用具専門相談員や介護支援専門員は、専門職の見解や利用者の身体状況を踏まえた上で最終的な提案が行われる。

そのため、作業療法士は利用者の退院時・退所時のカンファレンスやサービス担当者会議といった多職種による協議において、専門職として対象者の心身状況を適切に把握した上での見解を利用者及び福祉用具専門員や介護支援専門員へ伝える必要がある。

（参考文献）介護保険最新情報Vol.1261「令和6年度介護報酬改定に関するQ&A（Vol.5）」より抜粋
<<https://www.wam.go.jp/gyouseiShiryoku-files/documents/2024/0501112600234/ksvol.1261.pdf>>

こどものための福祉機器展に出展しました！

2024年7月6日（土）、7日（日）の2日間、八王子にある東京たま未来メッセで「こどものための福祉機器展」が開催され、東京都作業療法士会として出展しました。この展示会は、多摩地域にある座位保持装置などの作製をしている工房が10年前に開催した小さな展示会が始まりで、多摩地域からも参加しやすい展示会です。今回、こども委員会、事業部、スポーツ支援委員会、福祉用具部が協力して出展の企画・準備をし、当日は西多摩南多摩ブロック、北多摩ブロックの委員や、台東病院のスタッフも応援として加わり運営しました。

都士会の展示ブースでは、任天堂スイッチにフレックス・コントローラーを中継させジョイスティックや外部スイッチで体の状態に合わせて簡単に操作できる体験をすることや、共遊玩具・スイッチで動く玩具・感覚遊びができる玩具、トーキンエイドfor iPadなどを操作・体験できる場となっていました。また、OT協会で行っている生活行為工夫情報事業の事例の中から、こどもの事例（31事例）を抜き出しパネルとファイルで閲覧できるようにしました。会場の入り口の近くということもあり、多くの方に立ち寄っていただきました。こどもたちは障がいのある子もいない子も一緒に楽しめる場となっており、親御さんからのご質問や、ご相談を受ける機会も多かったです。

会場全体はアットホームな雰囲気、いろいろなブースをゆっくりと見てまわることができました。キッズフェスタよりも規模は小さいですが、気楽に立ち寄れる展示会です。来年も同じ場所で、さらに会場を広くすると主催者の説明がありましたので、ご興味のある方はぜひご参加ください。



都内で自動車運転再開を行っている 支援マップ作成について協力をお願い

自動車運転と移動支援対策委員会 委員長 大場 秀樹（東京都リハビリテーション病院）

令和6年8月現在、ドライビングシミュレーターの中で多く使用されている本田技研工業（株）のHondaセーフティーナビを導入している都内の医療機関は20箇所あります。またドライビングシミュレーターは導入していなくても、指定自動車教習所と連携して支援を行っている所もあります。しかし、実際に支援を行っている施設（急性期、回復期、生活期）やその支援の内容や実態は十分に把握できていません。

令和6年3月24日に日本安全運転医療学会が主催（東京都作業療法士会後援）で、第1回脳損傷者の自動車運転再開に係る合同研修会が行われ、医療機関10箇所、警視庁運転免許本部、東京都指定自動車教習所協会、指定自動車教習所4箇所が集まりました。当委員会委員含めて、作業療法士は15名が参加しました。この合同研修会での意見交換会を通して、脳損傷者が適切な運転再開支援を受けられるように、対応できる医療機関や指定自動車教習所の現状を把握し、より円滑に相談や支援が行えるようなネットワーク作りをしていくことが共有され、支援マップの作成をすることが最初の目標となりました。そして当委員会が支援マップ作成を協力することになりました。

そこで、支援マップの作成に向けて、自動車運転の支援を行っている施設の方々に、情報掲載についてご協力を賜りたいと思います。ご協力いただける方は、下記のQRコードよりご連絡などをお知らせください。締切は、10月1日（火）までをお願いします。

支援マップの作成については、個別にご対応させていただきます。是非とも、前向きにご協力いただければと思います。よろしく願いいたします。



第20回東京都作業療法学会報告と オンライン就労支援事例検討会のご案内

就労支援委員会 松本 直之

先日開催された第20回東京都作業療法学会にて就労支援委員会として公募企画を行いました。テーマは、「就労支援におけるOTの役割～就労継続支援B型におけるOTの実践を通して」。講師として加藤翔平様（就労継続支援B型Work-Withモノリス）、神山英梨奈様（就労継続支援B型リハワーク豊島）のお二人にご登壇いただきました。

お二人からは、それぞれの施設概要・具体的な支援内容・事業所内でのOTの役割・やりがい等をお話いただき、就労継続支援B型におけるOTの関わりや専門性について確認することができました。会場の座席がほとんど埋まってしまうほど多くの方にご参加いただくことができ、興味関心の高さに驚きました。今後も会員の皆様の就労に対するニーズに応えていくことができればと思います。

学会後の8月7日（水）には、オンライン就労支援事例検討会を実施いたしました。今回は、3名の参加がありました。生活訓練・就労移行支援事業所を利用している発達障害をお持ちの方について検討を行いました。次回は、10月23日（水）19:00-20:30で企業に障害者雇用担当として勤めている方から精神障害をお持ちの方の事例を提供いただき、検討を実施予定です。ご興味ある方はぜひご参加お待ちしております。

申し込みはこちらのURLかQRコードからお願いします。

https://docs.google.com/forms/d/1uec1SjgMgGx69iZAbqJb6pkh7LtbyingfdkFmwwwUQ0/viewform?edit_requested=true



OT協会の災害対策の動向と 東京都で災害が起きた際の動き

保険部部长（OT協会災害対策課） 門脇 優

これまで日本国内にて大規模災害が発生した際、OT協会では各会員や都道府県士会に対して様々な支援・情報提供を行ってきました。2024年1月1日に発生した能登半島地震では、協会として従来の支援だけでなく、これまでとは異なる災害支援に対する活動に取り組みました。大まかな活動概要の報告と実際に東京都が被災県となった場合、どのような支援が行われるのかを一案としてお伝えしたいと思います。

〈各都道府県にて災害が発生した際のOT協会による支援〉

各都道府県にて災害が発生した際、「大規模災害を被った都道府県における作業療法士会の支援に関する規定」により様々な支援が行われる。

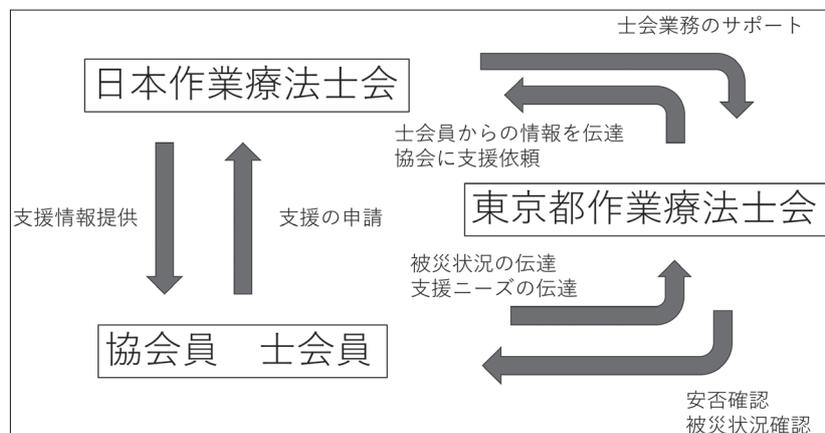
- ・ホームページに見舞文の掲載
- ・初期対応支援金の拠出
- ・会費免除申請の受付開始
- ・支援金受付口座の開設
- ・災害支援ボランティアの派遣準備
- ・その他必要な対応

となっている。これまで日本各地で発生した災害に対し、被災があった士会に対し支援を行っている。

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、災害対策室という支援室を立ち上げ、災害対策課の課員と各理事を含めたスタッフで支援体制を構築。石川県OT士会に対して、8つの支援企画を立ち上げた。災害対策課の課員と各理事を中心に、石川県の各担当者との意見交換しながら対応をした。内容については、被災士会として所属士会員のへのサポートや協会員に対し情報発信をすることへの組織としてバックアップを行うことを実施した。

〈東京都で災害が発生した際のOT協会による支援〉

東京都で被災した場合、本災害で石川県士会を支援した方法と同様の対応になり、被災した都士会と会員を協会がサポートする形が考えられる。支援の流れを一例として下記の図に示す。



会員への支援はOT協会だけでなく、他専門職団体とも情報共有しながら行われることとなる。提供された情報全てについて対応することは困難と思われるが、ご自身の情報だけでなく、地域の情報、職場の情報なども集約することで効果的な支援に繋がるよう有事の際には士会員の皆様にはご協力を願いたい。

ブロック活動のお知らせ

西部西南部ブロック

石川 未来

皆様、初めまして。今年度6月から西部西南部ブロック長となりました、石川と申します。当ブロックでは、今年度認知症アップデート研修を担当しております。委員の方々とは協力して当研修は年明け頃の開催を予定しております。また、ブロック主催の催しとしては、他ブロックやそれぞれの区に倣って、ブロック内のOT顔合わせ兼座談会を開催できるよう計画を進めてまいります。開催が決定し次第お知らせいたしますので、それぞれの研修ともに皆様ぜひともご参加ください。

引き続き当ブロックでは仲間を募集中です。例えば令和6年トリプル報酬改定後の細かなお悩み相談等、日頃のちょっとした相談の場にもなるかと思っておりますので、ご興味のある方は、下記アドレスまでお気軽にお問い合わせください。

区西部西南部ブロック連絡先：seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

清水 隆志

ブロック活動は、下半期に入り活動を再開しております。今後も興味を持てる研修や交流会など企画して、ブロック内の発展の一助になれるように頑張りたいと思います。最後にブロック活動にご興味がある方を募集しています。活動を通じて他施設・領域のOTと交流もあり、良い経験になるかと思っております。ご興味のある方は区西北部ブロックまでお問い合わせください。

連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com



区東部・東北部ブロック

小宮 優太

第20回東京都作業療法学会が閉幕し次回は、2025年7月13日（日）第21回作業療法学会が開催予定です。本学会は、中里武史学会長、大瀧直人実行委員長、区東部・東北部ブロック委員を中心に準備を進めております。下記にプロモーション動画、開催概要のQRコードを掲載しました。皆様にもご協力を頂き、職場、ご友人などへ動画の拡散をお願いいたします。これを機にブロック活動に関心をもった方は、下記までご連絡いただき、一緒に学会を盛り上げていきましょう!!

区東部・東北部ブロック連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com



動画



開催概要

区中央部・南部・島しょブロック

山本 司

区中央・南部・島しょブロックでは10月にMTDLPの事例検討会、12月にスプリントのハンズオンセミナーを企画しております。また、来年には懇親会なども企画しております。現在、上記のイベントをよりよいもの

にするために、内容をさらに検討しているところがございます。詳細が決まりましたら、順次お知らせ致しますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

加えて、区中央・南部・島しょブロックでは一緒に活動していただける方を随時募集しております。他施設のOTと連携を取り、顔の見える関係を築きたい方など、ぜひ一緒に活動に参加してみませんか？また、ご意見、ご要望のある方も是非ご連絡ください。

区中央部・南部・島しょブロック連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

大貫 真理

当ブロックでは7月26日（金）に第13回OT座談会ツドイノバ「集まれ新人OT」を開催いたしました。様々な領域から25名（内新人OT9名）のOTが参加してくださり、新人OTの相談にのったり、ベテランOT側はどの様な接し方をした方がいいか等ざっくばらんに話し合いを行いました。

次回（第14回）のツドイノバは9/27（金）19:00～20:00にzoomにて「OTのアイデンティティ～作業療法に代わる新しい名前を考えてみよう～」をテーマに開催予定です。右記QRコードで参加申し込みが可能です。皆様のご参加をお待ちしております。



当ブロックの活動や委員紹介、北多摩地域の魅力等Instagramで発信予定です。是非チェックしてみてください。（@kitatama_ot）

*ブロックメンバーも引き続き募集中です。ブロック活動に興味のある方は、気兼ねなくご連絡ください。

北多摩ブロック連絡先：ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック

榛葉 智之

当ブロックでは7月に第1回研修 OT大懇親会～一緒に自助具を作ろう～と銘打ち、ソックスエイドの製作をしながら同じブロックの他職場、他領域OT同士での交流企画を開催しました。自助具作製の意義、考え方を振り返りつつ、色々なアイデアをソックスエイドに盛り込んでいく様子は大変刺激的でした！

そして、第2回研修「自動車運転支援について」を10月25日（金）オンラインで開催予定です。運転支援にお悩みの方などは是非ご参加頂ければと思います！



ブロックメンバー大募集！ご興味ある方はご連絡下さい⇒swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

第51回国際福祉機器展 H.C.R.2024が開催されます！

2024年10月2日(水)～4日(金) 東京国際展示場「東京ビッグサイト」東展示ホールにて開催されます。ハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した介護ロボット・福祉車両まで、世界の福祉機器を一堂に集めたアジア最大規模の国際展示会です。また、多彩なセミナー、イベントなどで常に最新の関連情報を発信しています。

毎年、日本作業療法士協会では主催者からの依頼により、特設会場内の「福祉機器相談コーナー」に相談員を派遣しています。今年も、東京、神奈川、千葉の3士会が合同で、作業療法現場での経験を活かし来場者の相談に対応いたします。会員の皆さまもぜひお立ち寄りください。

都士会公式SNSの紹介

広報部

都士会で所有している公式のSNSのアカウントは以下です。勉強会や心動かされるような良い取り組みなど唯一無二な作業療法らしい投稿を心がけていきたいと思えます。みなさん、ぜひフォローして下さい。みなさんが投稿、リアクションし合い、シェアし合うことが作業療法の広報活動の一つにもなります。まずは知ってもらうことも重要です。巡り巡って作業療法の研鑽、みなさん自身のやりがいや待遇改善にもつながるかもしれません。



LINE



Facebook



@TOKYO_OT
Instagram



X

編集後記

この度、広報部部長の大役を預かりました野村哲朗と申します。よろしくお願いたします。都学会が大盛況でしたが、当日は様々な方にお会い出来、交流できることの喜びを強く感じました。次年度もまたお会いしましょう！

広報部部長 野村哲朗

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。